

# 東京の生協のまちづくり活動トピックス

今回は生協だけではないつながりづくりをすすめる取り組みと、医療生協の取り組みを学ぶ企画や生活困窮者支援について紹介します。

## 北区まちづくり 世代や組織の枠を超えたつながりづくり「第2回北区タウンミーティング」を開催しました

第2回となる今回は、世代を超えたつながりづくりを考えることを目的として、2月21日(火)に北とぴあにて開催しました。

前半は、慶応義塾大学医学部3年の難波美羅さんと木下純一さんから、学部内の春田淳志先生のゼミに参加し、先生がお勤めの東京ほくと医療生協のコミュニティドクターフェロシブ事業の一環として活動に関わった時のお話を聞きました。

お二人からは、患者を一つの臓器から診断するのではなく、患者の生活背景から地域の背景まで全体を診る「総合診療」が必要であるとし、地域全体の健康課題分析などをしながら、日頃から地域づくりと地域住民の健康づくりに携わる「コミュニティドクター」の存在が必要であるご報告いただきました。また地域活動として参加された子ども食堂や団地のお祭りでの子どもたちや地域の方とのふれあい、なんでも相談会や職業体験での多文化交流を通じて、「子どもたちの見た目だけからではわからない背景を、先入観にとらわれず同じ目線に立つことが大切だということ、地域共生を考えるうえでは言語や文化の壁を考慮することが重要だということ」を学び、多様な生活背景の人たちと触れ合ったことで自身の視野が広がった、「地域活動は、地域のニーズを見つけ出して、できることを活動につなげていくことなのだ」と、参加者に向けてとても頼もしいお言葉をいただきました。

さらに、別の視点からのまちづくりを知る機会として、区内の梶原銀座商店街とその中に事務所を持つ東京ふれあい医療生協が取り組むまちづくりについてのお話を動画で視聴しました。学生ボランティアや生協と一緒に、子どもが集まる「みちあそび」などの企画を開催することで、寂しくなった商店街が再び地域の人々の笑顔があふれる場所になるように活動されているお話でした。

後半の交流タイムでは、大学生や先生も加わり、それぞれが世代を超えてつながることの可能性を見出せるような充実した時間となりました。組織や世代を問わず多様な人々がお互いの強みを活かしながら頼りあって、地域を明るくする、そんな北区の将来を描ける企画となりました。

参加40名：生協27名/パルシステム東京・東都生協・北東京生活クラブ生協・東京ほくと医療生協・東京保健生協/大学関係5名/北区社会福祉協議会等地域の団体8名

## 品川区まちづくり 城南保健生協の「健康チェックを体験しよう」

3月24日(金)第6回定例会で城南保健生協の保健教育委員のみなさんによる「骨密度・血圧・体脂肪の測定と尿検査」の健康チェックを体験し、城南保健生協の取り組みについて学習しました。当日は定例会のメンバーに加え、地域で活動する組員や担当職員も参加。体験と学習の後に健康チェックの活用や連携について意見交換を行いました。参加者から「健康チェックは大切」「新型コロナが収まり、色々なことができるようになったら、学習会など取り入れたい」「地域の委員会が主体となって健康チェックのプログラムに取り組める」「若い人にはエクササイズがよさそう」「購買生協と保健生協との連携をすすめたい」などの意見がありました。今後の連携につないでいきます。

コープみらい、パルシステム東京、東都生協、23区南生活クラブ生協、城南保健生協

## 東京都生協連 「第2回都内フードバンク団体と生協の交流会」を開催しました



軸丸 里奈さん

都内のフードバンク団体や社会福祉協議会、生協や協同組合が集まる交流会を、3月22日(水)に東京都生協連会館とオンラインで開催しました。はじめに、フードバンク昭島代表の軸丸里奈さんから、支援を受ける人のプライドを傷つけない、恥をかかせないことを第一に考え、食の支援を通して何か少しでも支えとなることを意識して活動をしているとお話いただきました。

その後、5つの地域生協(コープみらい・パルシステム東京・東都生協・生活クラブ東京・自然派くらぶ生協)と医療福祉生協を代表して東京保健生協から、各生協の支援活動と次年度の取り組み方針について報告いただきました。

後半は、グループに分かれて交流を行いました。支援物資や保管スペース不足などの共通の悩みや、活動継続のための助成金活用のアドバイスや連携づくりの大切さなどについて、情報交換が行われました。

終了後のフリータイムでは、会場でもオンラインでも活発に交流が行われ、新たなつながりも生まれました。

参加51名(フードバンク関係13団体17名、社会福祉協議会・ボランティアセンター7団体8名、8生協24名、その他2名)



会場の様子



初めてのフリータイム交流

## CO・OPの日用品を21団体を通じて支援につなげました

3月に日本生協連より寄贈の申し出があった、夏に向けて必要な日用品を、この間交流会への参加や情報発信などでつながりのあるフードバンク団体と社会福祉協議会など21団体へ、総数で段ボール240箱分、重量では1トン超をお渡しして、支援につなげていただきました。また今回は、物資の受け渡しの中継地点として、フードバンク・社会福祉協議会3団体にご協力をいただきました。

今後も、協力と連携のできる関係を深め合いながら、ネットワークを広げていきます。

